◁研究会報告▷

第1回アジア加速器会議（APAC98）

小林　仁（高エネルギー加速器研究機構）

第1回アジア加速器会議：The First Asian Particle Accelerator Conference（APAC98）は，1998年3月23日から27日の5日間，文部省高エネルギー加速器研究機構を会場として開催された。初回ということで，何もかもが推定の域を出ない手探り状態の準備であったが，当初想定した最大で350名という参加予定を大きく越え，400名の参加を得た。外国からは，韓国36名，中国33名，米国17名，インド10名，ロシア8名，台湾7名，ベトナム3名，カナダ3名，フランス3名，ドイツ3名，インドネシア2名，タイ2名，マレーシア1名，オーストラリア1名，オランダ1名の計130名であった。会議の内容はすべてプロシーディングスに譲り，以下述べることは会議の全体像であることを最初にお断りする。

これが第1回のアジア加速器会議であり，その特殊性を考えると，今後のこの地域での相互協力の基盤となる，アジア各国の相互理解を推進することが，この会議の大きな責務と考えられる。特に招待講演の構成にその意図が込められた。また，若手研究者にはその参加を鼓舞する意味で，出来るだけの考慮をすることが最初からの方針となっている。会議は，招待講演50件，口頭発表24件，ポスター発表214件（プログラム編成時）で構成された。

3月23日(月)夕刻のゲットトゲザーパーティで会議は始まった。本音としては，同時に登録をしてもらうことで，24日朝の登録の窓口混雑を少しでも解消できればとの思いであったが，予想を越えてKEK宿舎滞在者のみならず，市内のホテル滞在者からも多くの参加を得てかなりの盛り上がりを見せた。

さて，翌24日の朝から会議が始まり，菅原ACFA委員長(後述)による開会の挨拶に引き続いて，中国，インド，インドネシア，韓国，日本，マレーシア，台湾，タイ，ロシア，ベトナムの代表者が，それぞれ招待講演で各国の加速器と加速器を用いての研究の現状と将来計画についての包括的な報告を行った。

24日の後半から，27日最終日までの招待講演では，各国における主要な加速器研究施設の加速器の現状報告並びに将来計画の詳細報告へと進み，素粒子物理，原子核物理，放射光施設，大型プロトン加速器，リニアコライダ，自由電子レーザー等のための加速器計画や，現状報告がなされた。また，加速器を利用して展開されている重要課題である医療，産業，分析など加速器応用についての報告が行われ，議論も活発であった。

ポスター発表は，24, 25, 26日の3回行われ，プログラムの編成上，割り当て時間は短かったが，ポスターの展示期間を約1日とし，機会をみつけての情報交換をお願いした。幸い，ポスター会場の脇でコーヒーブレークがあり，期待どおりの状況に触れることが多かった。また，25日の夜には，国際協力体制の在り方についてのミーティングも開催された。26日のファシリティーツアーでは，各コンポーネントの研究者およびメーカーの協力を得て，ツアー先にポスター展示をし，専門的なデスカッションが出来るようにした。

日本の放射光施設については，一部施設の報告を招待講演で行い，全体は，日本の加速器をまとめた招待講演の中で述べられた（京大井上氏）。放射光に関するものは，前述の，24日の各国の包括的な講演の中に含まれていたことは勿論，26日の午前中が放射光施設の報告にあてられた。日本の施設を除いて，アジア各国の放射光施設は24日と26日の講演に網羅されている。

さて以下は裏話を述べる。今回の会議は，日本とアジア各国の物価の差異も考慮し，すべてをKEK内で行うことで，参加費の個人負担を下げることに努力した。参加者全員が，KEKの通常の食堂内で食事をすることは不可能で，急造レストランを体育館内に設置し，参加者はそこで食事をとることにした。参加者の中にベジタリアンの方や，特別なリクエストのある方がおられることも考慮した。KEK内ですべてを行うことで，大幅に参加費用等を低く押さえることが出来たが，その分，管理局をはじめ多

3月26日午後のファシリティーツアー：放射光実験施設玄関にて

(C) 1998 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research

くの方々の協力を必要とした。

さて，最後にこの会議がこのシリーズの最初であるので，開催に至った経緯を簡単に述べる。平成6年に，アジア地区における加速器科学分野の国際協力の推進，若手研究者の育成，将来計画推進のための各国政府への勧告などを目的として，アジア加速器計画委員会：Asian Committee for Future Accelerator (ACFA) が組織された。初代の委員長は，菅原高エネルギー加速器研究機構長である。ACFA では，アジア地区の加速器科学の研究者を中心に，最新の加速器科学研究の成果を，報告，討論する場として，アジア加速器会議を定期的に開催していくことを決議した。その第1回を KEK で開催することが同時に決議された。後援団体は，工業技術院電子技術総合研究所，日本原子力研究所，放射線医学総合研究所，大阪大学核物理研究センター，動力炉核燃料開発事業団，理化学研究所，東北大学原子核理学研究施設の各研究施設である。次回は，中国で3年後に開催される。

本会議を通じて，参加者相互の理解が深まった点で，第1回 APAC の最大の目的は達せられた。また，アジアの若手の研究者も大いに仲間の輪を広げ，強い印象をもって帰国されたようであり，その点でも将来の国際協力に向けておおきな成果があったと思う。今回の会議のプロシーディングスは電子出版にすることになっている。そうすることで世界各地からのアクセスが可能となり，検索等の観点からも利用しやすくなる。